

情報連絡員報告・1月分

製造業・非製造業とも足踏み続く

～ 1月は休日が多く非製造業を中心に売上ダウン～

< 東京都中央会 >

1月の情報連絡員報告によると、数値からみる新年は足踏みが続く幕開けとなったことが明らかになった。「売上高」のDIは、製造業6.2（前月12.5）、非製造業-27.1（同-21.2）、「業界の景況」のDIは、製造業-12.3（同-23.4）、非製造業-38.8（同-37.6）で、ほぼ前月なみの値となっている。化粧品・装粧品小売の業界から1月は休日が多く売上は不振だとする報告が寄せられている。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

< 特記事項欄より >

化粧品・装粧品小売＝去年あたりから1月の売上が全体的に悪い。休日が多いこともあるが、夜間人口が減り、どの店でも若い層の減少が目立つ。

業務用食肉卸＝「米国産牛肉の全面的早期輸入再開を求める会」にて署名運動を実施中。

理容用品卸＝理容業界の90%以上のサロンが前年比0成長ということでこれまでにない落ち込みの状態が続いている。最近、日刊紙でも10分間1,000円の低料金サロンを取上げているが、通常の理容店の経営を大きく圧迫している。

玩具卸＝正月商戦も期待はずれに終わり、停滞感は一層強まった。ただし、今月末に各メーカーが、本年度最初の新製品発表会を開催したが、新製品が続々登場し、大きな期待がかけられる。

家電小売＝薄型テレビ、DVDレコーダ等デジタル家電に一服感あり、1月は前年比微減の見込み。

豆腐製造小売＝新年会や家族でファミリーレストランを利用する機会が多い月である。家族で、鍋を囲んでの食卓の団樂が少なくなっている。消費低迷が続く業界は厳しい環境にあるが、がんばっている。

米穀小売＝産地からの直接販売が多く、

米穀小売店での販売を直撃。大きな影響を受けています。もともと1月は米の消費は減る月ですが、今後は各店舗が特色ある店作りをするよう呼びかけしているところです。

木材販売＝組合員は総じて振るわない年明けとなる。新築物件もかなり減少し、リフォーム中心の動きとなる傾向が一段と加速しそうな年となることは必至と思われる。

自転車小売＝週末の天候の悪さにより来店数が悪い。業界の新安全基準(BAA)がテレビCMで放送されているが、販売にはまだつながっていない。

古書籍販売＝景況は低調なままですが、1月は静かな幕開けというか特に目立った動きはありません。古書組合で運

営するインターネット「日本の古本屋」の動作環境が悪くなっているのので、早急にサーバーの増強を実施する予定です。

< 要望事項欄より >

* 鉄、石油製品の値上げに1日も早く歯止めをかけるような政策を望む。

[天幕雨覆製造]

* 1 原材料価格上昇及び安定供給対策

2 景気対策 3 円高対策[ねじ類製造]

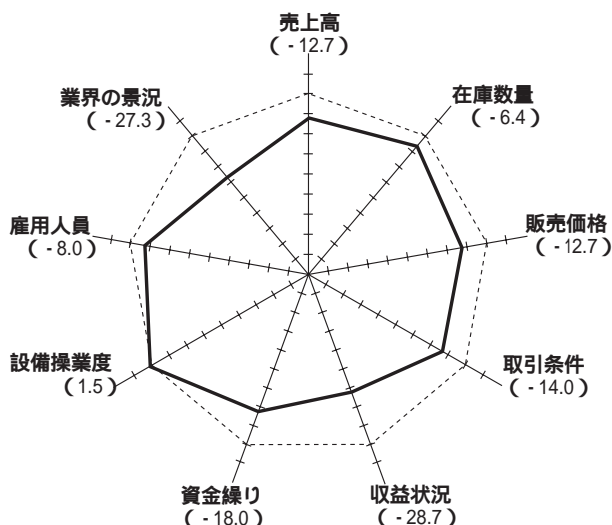
* 小零細事業所には過酷とも考えられる環境規制により、後継者が斯業を嫌気するようになり、事業の存続も困難となる事例がある。

[めっき業]

* 組合等団体に対する補助金、助成金の拡充をお願いしたい。

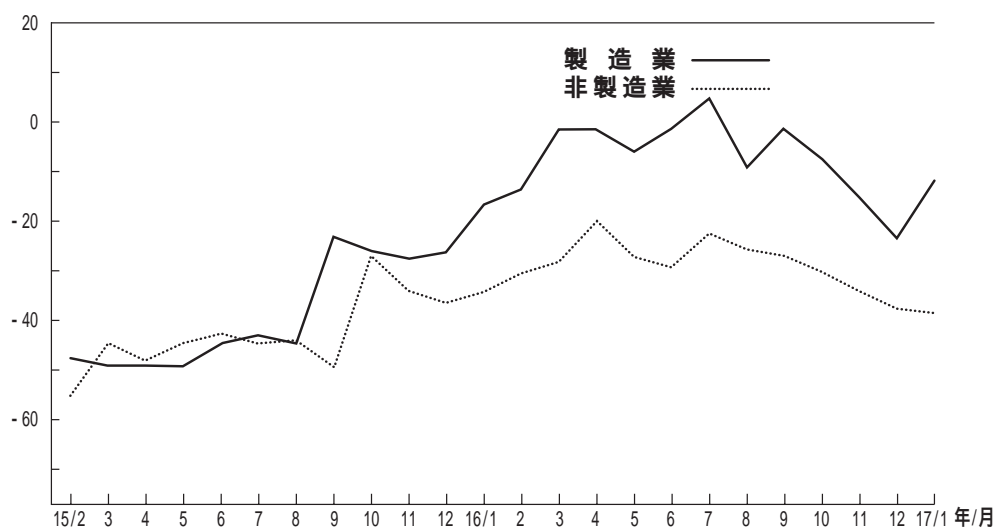
[複写業]

1月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)

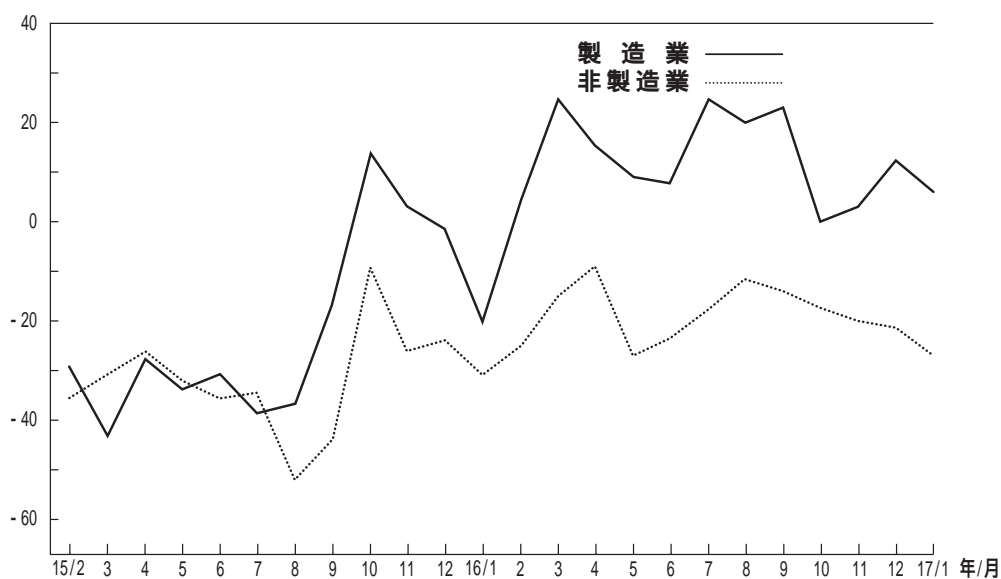


(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

業界の景況DIの変化（H15.2～H17.1）
（前年同月比）



売上高DIの変化（H15.2～H17.1）
（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。